

フィンランド語準中級講座⑭

「過去形の否定」

関連する他の動画
「フィンランド語文法：中級⑧」

資料掲載サイト
「フィンランド語との対話」 [<https://yoshidakingo.com/>]

フィンランド語準中級⑭：「過去形の否定」テキスト

Suomen kansa oli köyhää, eikä kaikilla ollut aina ruokaa. Ihmisiä kuoli nälkään ja erilaisiin tauteihin. Suomalaisia kuoli paljon myös sodissa. Elämä oli Suomessa vaikeaa. (Vilma)

フィンランドの | 民衆は | であった | 貧しい |、そして | すべての人に
| あったわけではなかった | つねに | 食料が。人々は | 死んだ | 空腹へ
| そして | さまざまな | 病気へ。フィンランド人たちは | 死んだ | たく
さん | また | 戦争において。生活は | であった | フィンランドで | 困難
な。

Ruotsin kieli oli Suomen virallinen kieli, mutta tavallinen kansa **ei puhunut** hyvin ruotsia. Koulut olivat ruotsinkielisiä. (Vilma)

スウェーデン | 語は | であった | フィンランドの | 公的な | 言語 |、しかし | ふつうの | 民衆は | 話さなかった | うまく | スウェーデン語を。学校は | であった | スウェーデン語による。

Kaikkiin suomalaisiin lama **ei vaikuttanut**, mutta monille se aiheutti pitkäaikaistyöttömyyttä, syrjäytymistä, konkursseja ja omaisuuden menetystä. (Syo, 42)

すべての | フィンランド人たちへ | 不況は | 影響を与えたわけではなかった |、しかし | 多くの人たちへ | それは | 引き起こした | 長期失業を | 疎外されることを | 破産を | そして | 財産の | 失うことを。

Hautajaiset voivat olla myös uskonnottomat, jos vainaja ei kuulunut mihinkään uskontoon. (Syo, 34)

葬儀は | ありうる | である | また | 無宗教の | 、もし | 死者が | 属していなかった | どの | 宗教へも。

He ajattelivat, että he voittavat sodan 2 viikossa. Suomi taisteli hyvin, eikä Venäjä voittanut sotaa niin nopeasti. (Vilma)

彼ら（ロシア人たち）は | 考えた | 、 [~だと | 彼らは | 勝つ | 戦争に | 2 週間で] 。フィンランドは | 戦った | よく | 、そして | ロシアは | 勝たなかった | 戦争に | それほど | 速く。

Tunteitani **en saanut** näyttää, sillä vanhempani **eivät** sitä **kestäneet**. (Kiitäjät kotopululla, 23)

感情を・私の | してはならなかった | 見せる | 、というのも | 両親は・
私の | それに | 耐えられなかった。

Köyhät ihmiset **eivät voineet** päättää omista asioistaan. Asioista päättivät rikkaat talonpojat, porvarit, papit ja aateliset eli yläluokka. (Vilma)

貧しい | 人々は | できなかった | 決める | 自分の | 物事について・彼ら
の。物事について | 決めた | 裕福な | 農民たち | 市民(ブルジョワジー)
たち | 聖職者たち | そして | 貴族たち | つまり | 上層の人々が。

Venäläisillä sotilailla oli vaikeata taistella pakkasella ja he **eivät osanneet** hiihtää hyvin. (Vilma)

ロシアの | 兵士たちには | であった | 難しい | 戦うことは | 零下の寒さにおいて | そして | 彼らは | できなかった | スキーをする | うまく。

Monet naiset **eivät olleet** töissä ennen maailmansotia, mutta kaikki muuttui, kun sota alkoi. (Syo, 78)

多くの | 女性たちは | いなかった | 仕事の中に | [前に | 世界大戦の] | しかし | すべては | 変わった | [~のときに | 戦争が | 始まった]。

フィンランド語準中級⑭：「過去形の否定」解説

I. 過去形の否定

- 過去形の否定では、現在形の否定と同様に否定動詞を使う。
- 過去形の否定では、否定動詞と能動過去分詞を組み合わせる。

minä	annoin	⇔	en	antanut
sinä	annoit	⇔	et	antanut
hän	antoi	⇔	ei	antanut
me	annoimme	⇔	emme	antaneet
te	annoitte	⇔	ette	antaneet
he	antoivat	⇔	eivät	antaneet

- 結果的に、過去形の肯定と否定はまったく異なる理屈によって作られるので注意が必要。

II. 能動過去分詞の確認

	A不定詞	現在語幹	能動過去分詞・単数	能動過去分詞・複数
		子音語幹	-(n)ut/-(n)yt	-(n)eet
1	sano ^a 言う	sano-	sano-nut	sano-neet
	yöpyä 泊まる	yöpy- : yövy-	yöpy-nyt	yöpy-neet
	tietää 知る	tietä- : tiedä-	tietä-nyt/tien-nyt	tietä-neet/tien-neet
2	juoda 飲む	juo-	juo-nut	juo-neet
	tehdä する、作る	teh-	teh-nyt	teh-neet
3	ajatella 考える	ajatel-	ajatel-lut	ajatel-leet
	mennä 行く	men-	men-nyt	men-neet
	purra 噛む	pur-	pur-rut	pur-reet
	pestä 洗う	pes-	pes-syt	pes-seet
4	tavata 会う	tavat-	tavan-nut	tavan-neet
5	valita 選ぶ	valit-	valin-nut	valin-neet
6	kyetä できる	kyet-	kyen-nyt	kyen-neet

- タイプ 1 と 2 の動詞では、（強形）現在語幹に -nut/-nyt をつける。
tietää には tietänyt に加え tiennyt という例外的な形が存在する。
taitaa には taitanut に加え tainnut という例外的な形が存在する。
- tehdä と nähdä、さらにタイプ 3~6 の動詞には子音語幹と呼ばれる形がある。子音語幹とは、tehdä と nähdä、さらにタイプ 3 では最後の 2 文字を取った形、タイプ 4~6 では最後の 1 文字 A を取った形。
- 子音語幹をもつ語では、過去分詞の印は子音語幹につける。
- タイプ 3 では -nut/-nyt の -n- が直前の音と同じになる。
- 逆にタイプ 4~6 では子音語幹の最後の -t- が -n- に変化する。
- 過去分詞には複数形がある（-ut/-yt を -eet に変える）。
- 否定動詞と過去分詞を組み合わせると過去形の否定になる。

en sanonut
et sanonut
ei sanonut

emme sanoneet
emme sanoneet
eivät sanoneet